

3月30日をもって、 2期8年にわたり村政を 支えて来られた荒木村長が 退任いたしました。



お礼の言葉
荒木 毅

4月に入り、厳しかった冬の寒さもようやく和らいで参りました。村民皆様には、

益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて私こと、この度3月30日の任期満了を以って村長職を退任いたしました。在職中は多くの皆様に温かいご支援ご協力をいただき、お陰様で2期8年の職務を全うすることが出来ました。改めて厚くお礼を申し上げます。次第でございます。

私が就任した平成18年当時は、小泉内閣の三位一体の改革により、地方の主要財源である地方交付税が大幅に削減され、更に平成の市町村合併の余波もあり、果たしてこのままで高山村が存続していけるのだろうか、強い危機感を抱かざるを得ないような状況でございました。それを受け1期4年間は、極力大きな出費を避けると共に、専ら財政基盤の確立に努めて参りました。

その結果として、ある程度の成果が見えてきましたので、2期目の立候補にあたっては、村の将来を見据えた、より積極的な施策の展開をお約束させていただきました。まず、長年村の懸案となっていた上越新幹

線中山トンネルからの農業用水について、2年にわたる大手コンサルの調査結果を踏まえ、地上管理の深井戸により、これを確保することとし、現在までに3本の深井戸を掘削してきました。本年の田植え時には、これがフル稼働できるのではないかと思います。

次に若者定住化対策としての一戸建て村営住宅の建設や宅地造成などにも取り組み、中学校の耐震工事、小学校の大規模改修をはじめ、社会資本整備として大小さまざまなハード事業も実施することが出来ました。

また、6次産業推進補助金や、住宅リフォーム補助金など、村独自の補助事業もいくつか立ち上げ、地域経済の活性化、特産品の開発などにも意を用いてきました。

村の基幹産業と位置づけた農業では、従来からのコンニャク、枝豆、ナス、トウモロコシなどに加え、村の花リンドウの栽培に生産者皆様と力を尽くしてきた事も思い出されます。村づくりにおけるソフト事業の柱として、「緑のふる

さと協力隊」制度を導入し、本年度4年目になりました。代々の協力隊皆さんの力もあり、大きな成果を上げていただいたと感じております。

更に、老朽化した国民宿舎「わらび荘」から撤退を決断し、次代の観光施設の核として、道の駅「中山盆地」の建設を進めてきましたが、用地的には広く確保してありますので、今後更なる整備、活用も考えられるのではないかと思います。

これに加えて、この度、高山村観光協会を設立することになりました。これにより、高山村独自の体験型、周遊型のグリーンツーリズムが更に推進されるのではないかと思います。また、都市との交流事業として、神奈川県藤沢市とのお付き合いも始まりました。

町村における行財政改革は永遠のテーマであり、私も一貫して常に心掛けてきたことですが、結果として村役場の職員数で見ますと、最大時は村長以下81人体制でしたが、平成26年度当初において63人体制となり18人の減、村の代表的な基金

とされる財政調整基金については、就任時に比較して倍増の18億円、財政の健全度を示す実質公債費率は、2.2パーセントと3年連続県下1位の数字を残すことが出来ました。自主自立を選択した高山村として、その財政基盤はある程度確立できたのではないかと思います。

本年は、明治22年に高山村が誕生してから、125年という大変区切りの良い年になりました。日本の原風景とも言うべき当村の田園景観は、近年非常に高く評価されるようになっております。新たに就任された後藤新村長のもと、ふるさと高山村が更に発展していくことを確信すると共に、私も役職を離れた立場で、微力を尽くし応援させていただきます。結ばれたいと思います。

結びに、8年間にわたる村民皆様のご厚情に改めて深く感謝申し上げます。併せて村民皆様お一人お一人の心よりご祈念申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございます。